

平成29年度豆類振興事業助成金(試験研究)の成果概要の要約

⑤課題:小豆の機械収穫適性を向上させる長胚軸に関するDNAマーカーの開発(28~30年度)
代表者:国立大学法人帯広畜産大学 環境農学研究部門 教授 加藤清明

目的

コンバイン収穫が可能な、長胚軸かつ栽培・品質特性に優れた品種育成のため、遺伝特性の解明とDNAマーカーを開発する。

成果

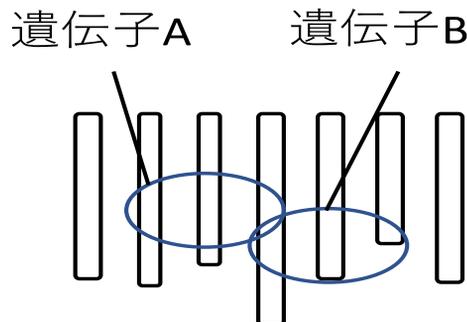
①長胚軸系統と普通胚軸品種・系統の交配後代における遺伝解析

・胚軸と他の形質との遺伝様式と形質間の相互作用を明らかにするため、長胚軸系統と普通胚軸系統の交配後代2集団のF3系統の胚軸長を調査した。

②長胚軸系統選抜のためのDNAマーカーの開発

・H28に開発したマーカーに加え、F2とF3の各世代で長胚軸性に関与するDNAマーカーを選定した。また、長胚軸性には、2遺伝子が関与することが分かった。

小豆の長胚軸性に関連する2遺伝子の染色体上の位置



アズキ染色体の一部と
機械化収穫適性の向上
に欠かせない長胚軸性
遺伝子A(仮)とB(仮)